

(4面から続く)  
ざした運動を進めていくために、組合員の居住地を基本に墨田区内に適した分会数と組織人数、また分会財政面の平準化などを検討し進めてきました。  
二〇一〇年三月には八広分会とひきね分会が結成、二〇一一年一月

には押上分会・文化分会が統合し「あづま分会」が新しく結成されました。これで墨田支部は二〇一〇年までの地域一分会から八分会に再編されました。まだ不十分な所もありますが、昨年のあづま分会の結成により一定の組織再編が確立されました。

### ③役員体制と若年組合員・主婦の会・シニア友の会の組合活動

この数年、支部常任執行委員は定数を満たしておらず、専門部長の兼任が出ています。分会一人の常任執行委員の選出をお願いしていますが、二〇一一年度も全分会からの選出はなりませんでした。常任執行委員は組合運動を推進していく上でも重要な任務を担っている役員です。分会役員についても兼任している分会や定年を超えている専門部長が選出されている分会があり、次年度の課題となりました。

後継者対策部の活動は、新加入者への組合説明会を毎月開催し、組合活動の説明と運動参加を促す取り組みを一年通じて行ってきました。また組合未結集の組合員が気軽に活動に参加できるようにイベント企画などを行ってきました。

若者の建設産業従事者は全国的にも減少している



後継者対策部の夏休みバーベキュー大会

二〇一一年度の支部財政は、圧縮した予算の中、では予算通りの執行となり、収入については就業実態調査から組合員の脱退による組織減少、新規加入者の減少などで収入減となりました。支出については就業実態調査、住宅エコポイント申請など残業代が増加し予算を上回りました。新卒の集いなどの行事費を切り詰め、全体で予算内で推移したと言います。組合費滞納克服に振替えます。

以上が二〇一一年度の主な運動の特徴です。具体的な取り組みについては、各専門部報告(大会議案に掲載)で示しています。

### (7)支部財政に

取り組みにも参加し、組合運動に貢献して頂いた一年でした。シニア友の会は、社会保障運動を中心に毎月駅を行って来ました。

住宅まつりでは木工教室指導



墨田支部最大の行事 すみだ住宅まつり

## 12年度の主な運動の重点

### (1)12年度の運動方針にあたって

二〇一二年度の運動方針を提案するにあたり、全建総連、東京土建本部の運動方針を基本に据え、墨田支部で運動の前進を図るため、支部の具体化と各分会が運動の実践を行っていくための方針提案をします。

(一)地域に根ざした運動の取り組みとして、住宅まつり、住宅まつり、子供たちの木工教室など、支部、分会が行動計画を立て、取り組んでいきます。

(二)地域支援活動の取り組みとして、墨田区耐震補強推進協議会、NPO法人すみださわやかネットなどの活動を支部が多数派形成を目指し、

(三)組合員、家族の仕事と暮らしを守る運動強化と、組合員の要求に応える事業、業務の充実をはかります。各専門部の運動と協同組合事業の発展や組合業務の充実を進めていきます。

(四)安定した支部運営と東京土建が進めている様々な運動を前進させるためにも、組織拡大を成功させ、建設産業における多様な活動を目指し、

(五)支部、分会役員体制と専門部機能の充実を図り、支部・分会が、運動を進めていくための役員、分会の組織人数、分会財政などを検討し、居住地域組織としての群再編を視野に入れた組織確立を目指します。

(六)災害時に備えて組合内での初動体制の確立と、防災意識を高める定期的な学習会の開催、墨田区との防災協定見直し、区民の期待に応えられる体制を整えていきます。

不安定な政治が続いている中、二〇一二年度予算成立後の消費税増税関連法案をめぐる解散総選挙の現実味も帯びています。東京土建は政党支持、思想の自由を保障する立場を守りつつ、組合員の要求実現と、建設労働者が主体となった建設産業確立に向けて、組合に結集していきます。

墨田支部が進めてきた、建設労働者の地位向上と地域に根ざした運動に確信を持ち、地域建設産業の発展と、平和と安心な生活と暮らしを求め、組合員、家族は元来、地域住民にも運動を広げ、私たちの要求実現の現実にあふれる、集結の自由を保障する立場を守りつつ、組合員の要求実現と、建設労働者が主体となった建設産業確立に向けて、組合に結集していきます。

墨田支部では、墨田社保協、墨田労連など地域団体と連携をほかり、学習宣伝行動や地域集会、署名活動など、世論を巻き込んだ大衆運動に取り組んでいきます。



支部四役のみなさん(新春のつどい)